

2022年11月11日

今月のひとこと

【Vol.239】 今月のひとこと

**今月の
ひとこと**

みなさま

岡本和久です。今回は個人的な内容で恐縮です。

ご報告が遅れ大変申し訳ありませんでしたが、8月1日をもちましてI-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社の代表取締役社長を退任し、代表取締役会長に就任いたしました。17年3ヶ月にわたる社長としての仕事ができただけのも一重にみなさまの温かいご支援の賜と心から御礼申し上げます。



後任の社長には兜日本株価指数完成の立役者になっていただいた明治大学商学部教授の三和裕美子さんに就任していただきました。三和さんの証券市場での経験と研究分野はI-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社のさらなる活動と発展に大きな貢献をしていただけることと思います。もちろん、私も引き続きうるさい意地悪いさんとして新社長を支えていくつもりです。

さらに三和さんの補佐として明治大学商学研究科博士後期課程1年の太田達也君に調査・営業部長として活躍してもらうことになりました。太田君は三和さんの教え子で今回の指数開発でも中心的人物として頑張ってくれた貴重な人材です。

私の人生はほぼ15年のサイクルで転機が起こります。1975年から1990年までのニューヨーク（9年）とバブルの東京（6年）におけるストラテジスト兼アナリストの仕事、1990年から2005年までの外資系年金運用会社の社長としての仕事、そして、2019年には2005年からのI-Oウェルス・アドバイザーズにおける投資教育家兼フィナンシャル・ヒーラー®としての活動に加え、特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」を立ち上げました。そして今、この15年サイクルを考えると立場を変えるちょうど良い時期だと思いI-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社の社長の退任、会長に就任することを決意したのです。

後期高齢者となりこれからはこれまで証券市場から受けたご恩に対して奉公をもってお返しをしていきたいと思っています。活動の基本を「すべては生活者が『しあわせ持ち』になるため」という原点におき、生活者のための人生の伴走者として本当のアドバイザーをFIWA®活動により養成し、認定し、育成する。そして理論的に正しく、実証的に有効な資産運用により生活者の方々の経済的束縛からの解放と自由の確立を二つの目標として生きていきます。

体力、知力（特に記憶力）の衰えは否めませんが、一方、世の中のできごと、何をすべきかなどが直感的に分かるようになってきている気がします。これまでの50年以上にわたる証券市場での体験と学びを素晴らしい後進たちに伝え、合理的であり、みんなのために、そして未来のために良いことを恐れずに声をあげ、生活者にとって良い環境を創るべく努力していきたいと思っています。

特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」については軌道に乗せるのにもう少し時間がかかるかもしれませんが。しかし、岩城さんを始め理事、正・准会員のみなさんの尽力によって必ず生活者に本当に感謝されるアドバイザーが職業として成り立つようになると確信しています。

体調の関係で歩行に杖の手放せない毎日ですが、私自身が仲間のみなさまの活動の杖となっていけるようにしたいと思っています。これからもFIWA®、I-OWA、そして私をどうぞよろしくご支援いただければとてもありがたいです。これまでの感謝を込めて御礼申し上げますとともに今後ともよろしく願いいたします。

2022年11月15日
岡本 和久CFA, FIWA®



FIWA®からのお知らせ・セミナー予定

FIWA®マンスリー・セミナー #206

開催形式：On Line

主催担当：赤堀薫里

開催日時：11月20日(日) 12:30～15:30

講演・講師：岡本 和久「お金の歴史」

青山大学院大学客員教授、ニッセイアセットマネジメント投資工学開発センター長

吉野 貴晶氏「米国での伝統的投資戦略を日本市場検証するーダウの犬を中心にー」

備考：お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

第58回 FIWA®サムライズ勉強会

開催地：東京

担当：岩城みずほ

開催日時：11月24日(木) 19:00～20:45

会場：教室受講とZoomによるハイブリッド開催

人生100年時代の老後生活設計の新理論「WPP」とは

講師：谷内 陽一氏 第一生命保険株式会社 団体年金事業部 副部長 社会保険労務士、証券アナリスト (CMA)

備考：主催：NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

お申込先：<https://somerise.net/2022/10/08/1528/>

FIWA®マンスリー・セミナー #207

開催形式 : On Line

主催担当 : 赤堀薫里

開催日時 : 12月18日(日) 12:30～15:30

講演・講師 : 岡本 和久 「資産運用アドバイスへのポートフォリオ分析ツール活用法」

イボットソン・アソシエイツ・ジャパン会長 山口 勝業氏 「金融考古学(financial archaeology)」

備考 : お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>**FIWA®マンスリー・セミナー #208**

開催形式 : On Line

主催担当 : 赤堀薫里

開催日時 : 1月15日(日) 12:30～15:30

講演・講師 : 岡本 和久 「カントリー・ライフ・サイクルを考える」

ブーケ・ド・フルーレット代表 馬淵 治好氏 「2023年、どうなる世界の経済と金融市場」

備考 : お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

今月号の記事をすべてダウンロード

このページを印刷する

カテゴリー

今月のひとこと

タグ

【Vol.239】 2022年11月15日発行



2022年11月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

【Vol.239】FIWAマンスリー・セミナー講演より

144年間の株価指数完成にあたって

講演：明治大学商学部教授

三和 裕美子氏

レポーター：赤堀 薫里

三和 裕美子氏プロフィール

岐阜県生まれ。南山大学卒。88年から91年野村証券勤務。93年同志社大学大学院アメリカ研究科修士課程修了。96年大阪市立大学（現大阪公立大学）大学院経営学研究科博士後期課程単位取得し退学。96年から明治大学商学部専任助手、専任講師、助教授を経て05年同教授に就任。ミシガン大学ビジネススクール客員研究員、全国市町村職員共済組合連合会資金運用委員、地方職員共済組合金資産運用検討委員会委員などを歴任。研究分野は、機関投資家とコーポレートガバナンス、ESG投資など。現在、I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社代表取締役社長、エーザイ株式会社、ピジョン株式会社の社外取締役も務める。明治大学株価指数研究所所長。



明治大学株価指数研究所の設立意義と、6年間の歩みについて。また、レンジベースでの日本の戦前期の株式市場の特徴についてと、日米のリターンとリスクの比較の解説につきお話しします。

2016年明治大学株価研究所を設立しました。岡本さんから「日本は明治時代から株式市場が存在していて、ニューヨーク、ロンドンに並ぶ時価総額を誇っているにも関わらず連続した指数が存在していない。これは株式市場にとっても、日本経済歴史においても問題である」と、問題意識を投げ掛けられ、これをやることはとても意義のあることだと思い取り組んだ次第です。

完成までに2016年から2022年まで、6年間かかりました。いざ取り組んでみると、株価データを集めること、そして、増資、額面割当増資、分割払込配当修正をそれぞれの株価に修正していかなくてはならないということなど課題が山積でした。

あとは学生さんにアルバイトをお願いして、いろいろな雑誌、新聞から抽出する中で旧漢字が読めない、雑誌がボロボロで字が読めない、そんな困難に突き当たり、思った以上に大変な作業だということを実感しつつやってきました。その間コロナ禍もあり、今年（2022年）の夏にようやく完成してリリースすることができました。

我々のデータは、月次の株価データを集め、月次のデータですべて揃えていますが、いろいろな歴史的な事象と比べてみると、日本のTRI（Total Return Index、総合収益指数）を算出することになりました。これは、配当と増資の効果を価格修正したものです。また一切修正を施さないものがPI（Price Index、価格指数）です。つまりプレーンな株価です。これの月次のリターン、月次の価格、指数を出しております。

月次を平均したものを年次に直して変化率、つまり市場の収益率の年ごとに見たものを見ると、PIよりもTRIの方が大きくリターンに貢献しているということがわかります。日本の株式市場のTRI数値として大体プラス50%のところとマイナス35%の間のレンジで捉えていただきたい。

その中で、0%から上の50%の間をプロットすると、マイナスの年よりもプラスの年の方が圧倒的に多い。ただ近年、1990年の失われた10年、20年のところは、ちょっとマイナスが多いのですが、マイナスのブレ幅と、マイナスの年を見ると、プラスの年とプラスのブレといえますかプラスのリターンの方が圧倒的に多い。

一方米国の場合、上は35%のところからマイナス12~13%ぐらい。1929年あたりの大暴落で異常な値を示していますが、そのようなレンジの中で動いています。日米比較をすると、日本よりも明確かもしれませんが、通期で見た場合、圧倒的にプラスの年が多いということがわかります。マイナスのブレ幅はプラスよりも小さい。アメリカについては、リスクの大きさが通期で日本よりも小さい。

日本の場合、1880年以降とか90年以降で引き直すとレンジはもっと狭まっています。しかもマイナスの方にいつているということが、近年の日本の株式市場の大きな特徴を示しています。

今日は全体感を掴んだうえで、1951年までの株価指数値を作っていますので、PIとTRIの比較とリターンという意味で株式市場の動きを見てみようと思っています。日米のリターンを比較すると、日本の方がブレ幅、リスクが大きい。また、1800年代から2022年まで見た場合、若干日本の場合は近年に近づいてくるとプラスの部分がないのです。特にアメリカの場合は一定してプラスのリターンを出している年が圧倒的に多いのかなと思います。

戦争と株式市場という点では日本の第2次世界大戦の前の日清、日露、第一次世界大戦を見る場合、戦争が起こった時の戦時相場が上がって、その後で恐慌という形で下がっていくことがパターンとしてあります。しかし、下げという恐慌とか第二恐慌という表現というよりも、データで見ると、マイナス幅は、全体で比べてみると、そんなに大きくないのかな？という印象があります。アメリカに比べて、やはり全体の通期のチャートを見ても若干いびつな形をしているのが日本です。なぜそうなのかというと、官制相場色ということではないかと思えます。官、民、介入といった相場色が非常に強い、その影響が出ていると思えます。

特に、証券民主化運動、1948年商法、証券取引法制定を経て1949年取引所が再開されます、その前の、あるいは民主化運動の期間の店頭取引での大幅な価格の上昇というものが、全体からいうと少し異常値に見られる傾向があるのかなということを思いました。

講演では、PIとTRIの比較とリターンという意味で株式市場の動きを、「戦争と株式市場」「日本の特徴として官民の官企業への株式市場への株買い支えという介入」「戦時統制とその後」の3つに分けて解説いただきました。また、日本の戦前期の株式市場の特徴について大変興味深い解説をいただきました。（文責：FIWA）

フリーディスカッション

岡本 | 指数を作るためには、指数に組み入れられている株式市場の全部の銘柄の長期に渡る株価が必要です。そういう意味では、この研究は膨大な作業による極めて貴重な資料です。明治時代からずっと続いている企業のそれら個別企業の株価がどのように変化してきたのかということがずっとわかるわけです。それを、例えば営業報告書に載せることもできるでしょう。そういうニーズもこれから出てくるのではないのかと思っています。また、それぞれの企業のコーポレートアクションやすべてそのデータというものは、トータルのデータベースの中に入っていますから。そういう分野をどのように切り分けて、どのように価格付けしていくのかということ、これからよく考えていかなくてはならないというのが課題だと思います。

参加者 | 営業報告書があるから、企業のファンダメンタルリターンが計算できるのではないのかなと思います。いわゆるROEとか、配当性向を含めて株価ではなくて、企業が実力で儲けた分はどうかというね。それに対して株価は時には行き過ぎたり下がり過ぎたりしますよね。そこが分離してできると、実力ベースの部分と株価だけが勝手にというか、投資家が判断してやっている部分が分けられるといいかなと思っています。

三和 | ちょうど今、早稲田大学の宮島先生の研究室が、1914年から41年までの財務データ、株主データ200社程度ですが、作っていらっしゃる。それと我々が集めた株価データを拡充したもので戦前期の日本の企業のファイナンスといった形で世界に発信したいなと、進めようとしているところです。

参加者 | よくハイリスク・ハイリターンといわれます。プロットすると、右肩上がりになって、株式が右の上の方にありますよということで、リスク・リターンといわれます。私がみているところ、リスクとリターンは、その源泉が別ではないのか。どちらかという、リターンとは長期のリターンの平均リターンで、企業の実力ベースで稼ぐ部分でできていて、リスクというのは、短期的な変動なんですけど、投資家のプレのほとんどが現れている。よくいう「ハイリスク・ハイリターンだよ」ということとは、実はリスクとリターンの源泉が違うんだ！ということは今研究中です。その辺が分離できると非常に面白いのかな、インプリケーションとしては、長期投資をするからリターンが上がるんだよ、という話につながると思います。

三和 | 非常に興味深いですね。リスクは、株価のブレというか変動なので投資家の方はそれをもとに資本コストという形で要求してくるんだけど、でもそれって実はリターンというのは、企業の実力みたいなもので、そうしてみると、資本コストに見合ったリターンはちょっと違うよなということは今思いました。

参加者 | 今のお話のリスクとリターンは源泉が違うんじゃないかという点はひきつけられました。でもそれは、現代の金融投資理論、標準的な理論の最も中核的な命題に対するアンチテーゼになりますよね。でも逆に言うとこれ有名な話ですがポートフォリオのリスクをベータで測って、そのベータで測られたリスクをリターンが正の相関があるのかというと、ないということが判然としてしまっています。そういう意味では、中核的な命題はある意味もう崩れてしまっているんで、その辺に対するすごくクリエイティブな論文になるのではないかと引きつけられました。

参加者 | 144年間の配当込みというのが想像はちょっとしてみましたが、想像を絶する大変さだということがわかりました。質問としてはエーザイとかピジョン、日本でいうとエクセレント・カンパニー、ガバナンスがしっかりしていて、社外取締役もいる会社があるのに、なぜ個人もGPIFも含めて日本から投資家が海外へいくのか。これをどう捉えたらいいのか。ネガティブではなくてポジティブに捉えればいいのか、それともまだまだガバナンスコードというのが出来て7年なので、仏作って魂入れずという段階、過渡期なのか。ちょっとそのあたり、144年の歴史でリターンがアメリカ株よりもいいというのが「そうなんだ」と思いつつ、どっちを買うかといったら、アメリカ株、全世界株の方がいいな、ということ率直に思っています。その辺りのご意見をお願いします。

三和 | ガバナンスが良くなるからというか、モニタリングボードがあるから企業価値が上がるのか、という命題がクエスチョンマークかな？と思っています。企業価値が上がらないとは言いませんが、ガバナンスを整えることは下がらない大前提です。整えないとみんな投資をしない。でも企業価値を上げることは、イノベーションであったり、日本企業の実力だと思います。実力の部分と、形式といいましょうか、海外の投資家が投資をしてくれるようなガバナンスを整えるということは、ちょっと次元の違う話です。まず整えないと投資をしないし、なおかつリターンがあるかといったらその先の実力だということだと思っています。それは「ESGをやれば株価が上がるんですか？」とよく言われますが、「それは話が違う」と私はよくいっていますが、そういう話だと思います。日本企業の1990年代のリターンとリスクのブレが小さくなっています。でもアメリカは、マイナスにあまりブレず、プラスの方にブレている。要するにリターンが大きい。その違いだと思います。なので、世界に目を向けて投資をしたいというのは、投資家のみなさんも、現状をみれば当然のことだと思います。だから日本企業がどうすればいいのかというと、もちろんガバナンスを整えないといけな。でもその先のどういうイノベーションをだしていかなければ

ればいけないの？成長はどうするの？というところが課題だと思い、認識しなければいけないと思います。私は製薬会社さんの社外取締役をやっています。新薬を出す、出さなさいかのニュースを見て、株価はものすごく動きまゝす。先ほどのリスクではありませんが、投資家さんからは「資本コストが上がるから、それに見合ったリターンを出してください」と言われます。株価の変動によって、それに見合ったリターンというよりも、ちゃんと実力として新薬を作っていくということを企業は考えていくべきです。もちろん資本コストも意識してですけど。資本コストが株価の変動ではないですよ。

岡本 | 結局、個人投資家としては、一番魅力のある企業の株を買えばいい。それがたまたまアメリカ株になるかもしれないし、インデックスかもしれないし、日本株なのかもしれないということだけであって。もし日本株が十分に上がっていないという印象であれば、それは日本企業の実力不足だということ。ただそれだけではないですか？それを少しでも修正しようという試みの中でコーポレート・ガバナンス・コード等が出てきているのだと思います。それが本当に実のある手段なのかどうか。どっちかという、海外ではこうである。いろいろなところからいろいろ言われているから。それが本当に個別の企業が自分のものとして捉えていくのかどうか。さらに言えば国民一人一人が選挙をするというときに、自分のこととして捉えているのかどうか。同じようなことだと思います。やっぱり他人事である。形を作れば取りあえず何とか収まりが付くと。でも実態は収まっていません。それはやっぱり日本がこれから大きく成長していくパイオニアステージからグロースのステージへ向かっていくことができるための大きな条件だと思います。今日もありがとうございました。（文責：FIWA）

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 1
タグ 【Vol.239】 2022年11月15日発行

2022年11月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

【Vol.239】FIWAマンスリー・セミナー講演より

株価指数研究所の研究成果

日本の戦前期株式市場における株価指数およびデータベースの構築

講演

明治大学 商学研究科 博士後期課程 1年

I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社

調査・営業部長 太田 達也氏

レポーター 赤堀 薫里

岡本さん主導によって、創立された明治大学株価指数研究所の研究成果。日本の戦前株式市場における株価指数およびデータベースの構築についての報告です。

株価指数というと、皆さんがご存知の日経平均やTOPIXがあると思います。日経平均は1950年9月より算出され、TOPIXは1968年1月より算出されています。それぞれ1949年5月、つまり東京証券取引所が戦後再開されるまで遡及計算がされているわけです。日本の株式市場の歴史は、1878年、東京株式取引所が創立されて以来、現在に至るまで140年以上を有しているにもかかわらず戦前期から現在に至るまでの一貫通貫した株価指数が算出されていなかったというのが現状でした。



株価指数の役割は、従来は株式市場の趨勢を観察して景気状況を判断するための先行指数として、あるいはパッシブファンドの投資近似目標、または、デリバティブとしての投資対象としての役割がありましたが、近年では、株式投資成果を評価するためのベンチマークとしての役割が存在しています。投資成果を評価するのであれば、株式売買で発生するキャピタルゲインや、キャピタルロスだけでなく、中長期的な株式投資に伴うインカムゲイン、配当による収益も考慮に入れる必要性が生じてきます。

近年では、配当込みTOPIXや、配当込みの日経平均も株価指数が算出されています。戦前期を対象とした株価指数が存在していなかったと言いますが実際は存在していました。戦前期を対象として作成された主たる株価指数は、様々な算出スタイルや対象指数、対象期間で算出を試みていました。しかし、算出されている株価指数のほとんどは、配当の再投資効果を反映していない指数でした。唯一反映しているのが平山氏によって算出されたEQPIという指数のみというのが現状です。しかし、これとても戦後からの指数にリンクしたものではなかった。

今回の株価指数算出の意義ですが、まず戦前期を対象とした株価指数の問題点は、大きく2つあります。一点目が配当の再投資効果が未反映であるということです。実際に戦前期に株式売買を行う主要参加者の多くは、個人投資家がおよそ6割程度でした。その取引形態は投機的であったため、中長期的な株式保有に伴う配当の再投資効果を反映する意味が薄かったという理由で、配当込みの株価指数が算出されてこなかった。ただ一方で、生保のような中長期的に株式保有をする主体もありました。

もう一つの問題点は、戦前期に特有な金融制度が未反映であったということです。戦前期の株式市場には、株式分割払込制度や株主割当額面発行増資といった、当時に特有な金融制度が存在していました。これらは、株価の変動に大きな影響を及ぼすファクターでしたが、実際に株価指数に反映されていません。

これらの問題を克服することで、中長期的な視座のもと戦前期の投資家のパフォーマンスを明らかにすることができます。もう一点が株式投資のトータルリターンを明らかにすることで、日本における長期的株式リスクプレミアムの算出に必要な基礎的なデータを提供することができるとともに、ファイナンス研究における長期資産配分決定に多くのインプリケーションを与えることができるのではないのかというのが意義となります。

続いて戦前期の株式市場はどのようなものだったのか、戦前期の株式取引所の数と取引所の収入を見てみます。1878年から1936年までの間、現代と比べてかなりの数の取引所数がありました。1878年大阪、東京株式取引所に始まり、日清戦争後大きく増加します。これは、日清戦争のブームによって取引所の認可基準が低くなり、大きく取引所の数が増えましたが、後々、取引所としての機能が果たせていないということで減っていきます。

一方取引所の収入シェアを見ると、大阪株式取引所の収入シェアは、全体の2割から3割程度。一方、東京株式取引所の収入シェアは大体5割程度で推移しています。数ある取引所の中で、東京取引所に取引が集まっていた。今回算出した株価指数は、東京株式取引所において上場されていた銘柄について株価指数を算出してきました。

戦前期の株式市場は、現代のそれとは大きく異なる様相を呈していました。戦前期に特有の金融制度や、配当の再投資効果を勘案すると、戦前期を対象とした従来の株価指数では測りえない収益性が日本の株式市場に存在していました。

日本の株式取引所創立以来から現在に至るまでの趨勢を見ると、リターンリスク水準において、日本の株式市場は米国のそれを大きく上回っていたということが明らかになりました。

講演では、戦前期における株式市場の概観、また、株価指数の算出プロセスとその方法について。また、算出した株価指数、データベースの概要や日米の比較、リターンリスク水準などの解説。最後に今後の課題をお話いただきました。（文責：FIWA）

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 2
タグ 【Vol.239】 2022年11月15日発行



2022年11月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 3

【Vol.239】FIWAマンスリー・セミナー講演より

兜日本株価指数にみる日本証券市場全史

講演 岡本 和久 CFA, FIWA
レポーター 赤堀 薫里

明治11年から今日までの一貫した一つの指数を、兜日本株指数と名づけ現在、商標登録を申請中です。兜とは、明治から戦中も戦後もずっと取引が行われている兜町です。

今日は、この全体的な144年の話をしたいと思います。歴史を見ているとライフサイクルが国にもあるのではないのかと感じます。明治維新から今年まで戦前、戦後を境にして77年で半々になっています。ちょうど同じように戦前、戦後でマーケットの動きも似ている。明治維新から始まって、秩禄処分があり、取引所が設立されて、民間企業も少しずつできてくる。これが黎明期です。



成長期に入り、その時に体験するのが日清、日露戦争。そして第一次世界大戦へと続き、漁夫の利ともいわれていますが、非常に好況になりました。これは成長期です。

その後、成熟期がきます。第1次世界大戦後の反動不況も起こりました。それから金融恐慌、昭和恐慌が続いてあります。関東大震災もありました。そういう悪いニュースの中で、大正時代は、大正ロマンとか大正デモクラシーと呼ばれる明るい部分もあった。その中で格差が拡大していき、モボ、モガが闊歩する一方でマルクスボーイがでてきたり、農村が疲弊していくというごちゃ混ぜになった時代でした。昭和元禄などと言われた80年代の時もそうでした。バブルの中で非常に大きな格差の拡大も起こっていった。

そして最後に衰退期。戦前でいえば統制経済に入って、そして戦争経済に入っていく、4つのステージでワン・サイクルがります。そういう意味でいうと今はどうなのか。衰退期は終わっていると思いますが揺籃期期の入り口のあたりをうろろろしているそんな感じがします。

揺籃期、それは明治維新の時、終戦後もそうですが、非常に危機感をもってグローバル化への遅れを自覚していく。恐怖感がすごく大きなドライバーになっていたと思います。今は恐怖感があまりなく結構、安住感みたいなものに浸ってしまっていることが、なかなか次のステージに入れられないという理由である気がします。

日本の何を変えて何を維持すべきなのか。それを整理してそれに合わせて合理的なものをどんどん導入していく。不合理なものはどんどん止めていく。そういう大きな構造変化を一方で進めながら、日本のいいところをいかに残していくのかということが、今の日本が抱えている課題です。それを、スピード感をもってやっていくべきですがなかなか進まない、既得権益者の反対も強い。国民もなかなか選挙に行かない。残念ながらそんな状態です。

この状態からいつ、どのように脱却できるのか。それが今の日本の一つの課題だと思います。今までは戦後の株価指数しか見ていなかった。しかし、戦前の株価指数を戦後と一貫したアプローチで見ることができたことによって、ライフサイクルがあるということが明確に分かるのです。さらに次がどうなるのかということに考えが及ぶことになるわけです。そういう意味で、これは非常に価値のあることではないかと思います。

講演では、1878年から2022年に至るまでの144年にわたる壮大な証券市場全史を解説くださいました。

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 3
タグ 【Vol.239】 2022年11月15日発行

2022年11月11日

トリビア・コーナー

【Vol.239】 知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。

Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している



キンモクセイだけでなく「ギンモクセイ」もある几帳面



秋になると甘い香りがするモクセイ科の「キンモクセイ」は有名だが、「ギンモクセイ」という植物もある。

モクセイ科のギンモクセイの花は白色で、キンモクセイに比べると香りは控えめ。もともとキンモクセイよりもギンモクセイのほうが先にあり、ギンモクセイより色鮮やかで香りが強い変種が誕生し、その植物が「キンモクセイ」と名付けられた。

金と銀は一对になっていることが多く、金閣寺に対して銀閣寺、金魚に対して銀魚という魚もいる。銀魚は金魚の一種で、うろこが銀白色をしている。

『春秋に富む』

「春秋に富む」とは、「年齢が若くて、将来性がある」という意味。この場合の「春秋」は単に「春と秋の季節」という意味ではなく、「春秋」で「一年」を表す言葉であり、そこから「年月」や「年齢」という意味を持つ。そして、この「年月」はすでに経験した時間ではなく、未来の時間のことである。

そのため、「春秋に富む」は「年老いて経験が豊富」という意味ではなく、「年が若くて将来が長い」という意味である。そこから、「若くて、将来性がある」「将来が希望に満ちている」という意味で使われる。

この言葉は、中国の『史記』に登場する古い表現である。また、明治時代の詩人である石川啄木の小説『菊池君』の中に、「今の若い者は、春秋に富んで居る癖に惚れ方がせっかちだ」という一文がある。

神戸事件と滝善三郎神戸事件と滝善三郎

明治新政府となって初めての外交問題が慶応4年1月11日、神戸三宮神社前において起こった。備前岡山藩兵と外国人水兵が衝突した事件で、いわゆる「神戸事件」とよばれているものだ。

前年の慶応3年12月、岡山藩は西宮警衛の朝命を受け、家老の池田伊勢と同じく家老の日置帯刀が2000の兵を率いて1月5日に出立した。池田が若年であったため、兵の指揮は主に日置が担った。日置の側近が、馬廻役の滝善三郎正信だ。滝は荻野流砲術家であった父に砲術を学び、また小野派一刀流の槍術も極めていた。

1月11日、藩兵の隊列が西国街道の三宮神社近くに差し掛かった時のこと。開港したばかりの兵庫には、外国軍艦が碇泊し、多くの外国人が日本人(岡山藩)の隊列を見物しようと道沿いに集まっていた。突如、建物から出てきたフランス人水兵2人が、行列の前を横切り始めた。これは当時の武士たちにすれば、許されざる無礼な行為である。砲兵隊長の滝は行列の前に出て、2人を制止したが、彼らが強引に渡ろうとするため、やむなく手にしていた槍で腰に軽傷を負わせた。負傷した水兵は逃げ出したが、もう一人の水兵や周囲にいた水兵も拳銃を取り出したため、滝は隊列に注意を促すべく「鉄砲」と叫んだ。すると藩士たちは、発砲の号令と勘違いして一斉射撃を行なったのである。

この一斉射撃の弾丸は外国人の頭上を高く越えており威嚇射撃であった。しかし弾丸がはるか頭上を越えていても、外国人は日本人が銃口を向けたと受け取った。見物の外国人の中にはイギリス公使パークスもおり、事態に激昂。居留地守備の各国の兵士が集まり銃撃戦となる。しかし外国人を射殺してしまえばどうなるか、6年前の生麦事件と薩英戦争の顛末は滝たち備前藩士も知っていたため、本格的な衝突はせずに、銃を収めた。

小競り合いの結果、見習い水兵と別の外国人の2人が軽傷を負っただけで済んだが、事件を重く見た列強側は6か国の公使連名で政府にねじ込んだ。「死者が出なかったのは神の恩寵であり、殺意が明らかである以上、発砲を命じた士官の死罪を求めた」。これを受けて明治政府は2月2日、「砲兵隊長の滝善三郎の死罪、隊の責任者である日置帯刀の謹慎」を命じた。本来であれば、日置が責任を取るべき立場であったのかもしれないが、一説に、藩が日置を失うことを惜しみ、滝に因果を含めたともしられる。また藩主・池田茂政が、滝に対し「馬前の討死に勝る忠臣」と称え、「国家のため、藩のため、帯刀のために頼む」と声をかけたともいわれる。これが事実であれば、滝は割り切れない思いはあるにせよ、武士の面目だけは保ったのかもしれない。

滝は2月9日夜、現神戸市の永福寺で、神戸事件の責めを一身に背負い、外国人検視7名を含む列席が見守る中、弟子の介錯によって切腹したのである。享年32。

滝の切腹は神戸事件を收拾させたのみならず、世界的にセンセーションを巻き起こすこととなる。検視に立ち会った当時の適切かつみたて投資の家計への組み入れ ②iDeCoを優先するケースが滝の切腹の模様を本国に伝え、それをイギリスの新聞『適切かつみたて投資の家計への組み入れ ②iDeCoを優先するケース』が銅版画付きで報じたためである。

(追記) 滝善三郎の切腹については、新渡戸稲造「武士道」(第12章切腹と仇討)にも記載されている

鉛筆削り器普及のきっかけ

昭和35年10月12日、日比谷公会堂の壇上で演説中だった日本社会党委員長の浅沼稻次郎(61歳)を聴衆の面前で愛国党の山口二矢(17歳)が刺殺するという凄惨な事件が起きた(しかもテレビ中継されていた)。その時、犯人はナイフを使ったが、その当時多くの子どもは鉛筆を削るためにナイフを持っていた。



しかし、このショッキングな事件が起きたことで子どもにナイフを持たせない方がいいということで、「子どもに刃物を持たせない運動」が起きた。その結果、安全な形で使用できる鉛筆削り器が一気に普及したのである。

道頓堀 (の由来)

「道頓堀」は大阪府中央区の大阪きつての繁華街であり、ここの北側を流れる道頓堀川の略称でもある。

道頓は戦国末期から江戸時代初期にかけての商人だった「安井道頓」のことであり、道頓堀川を開削した人物でもある。かつての道頓堀川は湿地帯であったが、1612年道頓は物資の輸送や町の開発を目的として、私財をなげうち堀の開削に着手した。ただ、1615年に道頓は「大阪夏の陣」に豊臣方として参戦、戦死してしまう。彼の死後、道頓の一族らが作業を引き継ぎ、同年に道頓堀は完成した。

その後、この地を治めたのは当然ながら徳川方だ。大阪城主となった松平忠明は完成した運河を安井道頓に敬意を表し「道頓堀」と命名したのである。

適切なつみたて投資の家計への組み入れ ②iDeCoを優先するケースの日本橋北詰交差点北東角に「贈従五位安井道頓、安井道卜紀功碑」とある石碑が建立されている。

このページを印刷する

カテゴリー

トリビア・コーナー

タグ

【Vol.239】 2022年11月15日発行



2022年11月11日

FIWA認定会員 投稿コーナー

【Vol.239】FIWA認定会員 投稿コーナー

小谷 晴美（CFP,FIWA*）さんのブログより「適切なつみたて投資の家計への組み入れ」

* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

寄稿：FIWA®協認定正会員 小谷 晴美氏
CFP、FP1級、消費生活アドバイザー

（小谷 晴美氏プロフィール）

しなやかライフ研究所 代表。前職では経営コンサルティング会社にて中小企業診断士として経営指導、研修等に携わる。

2006年ファイナンシャルプランナー資格を取得し、お金の身近な相談役として個人相談件数は1500件を超える。

個人事業主の妻としてサポートをした経験と、子育てをしながら仕事の幅を広げてきた経験から、女性の起業支援、個人事業主の生活設計支援を得意とする。

著書に「女性ひとり起業スタートBOOK」（コスミック出版）がある。

HP：<https://www.shinayaka-life.com/>



商品提案における説得力のある話法が知りたい

大阪でファイナンシャルプランナーをしております小谷晴美です。

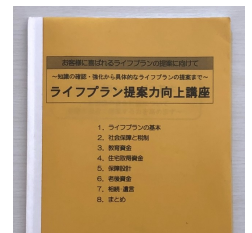
日頃は生活者を対象とした相談やセミナーを行っておりますが、今回は金融機関の職員向け研修について「どのような研修を行っているのか」とご依頼を頂戴しましたので、僭越ながら寄稿いたします。

私は金融機関での勤務経験はございませんが、中立的な立場で相談業務に従事する独立系のファイナンシャルプランナーという目線から、お役に立てればとのおもいで研修を担当しています。

ある金融機関の協会では2012年より20時間に及び研修を担当し、金融機関の職員として知っておきたい制度や生活設計の知識を体系的に学び提案力を向上させる実践トレーニングを行っています。

参加者は20代~30代の若手職員が中心で、FP資格をお持ちの方もいらっしゃいます。

事前アンケートを拝見すると、

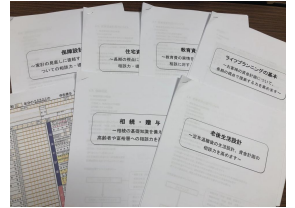


- 相談の実例を学び、実践で使える知識にしたい
- 商品提案における説得力のある話法が知りたい
- 適切なアドバイスができるよう幅広い知識を身につけたい

といった参加動機が多く見受けられ、長丁場の研修にも関わらず、終始熱心にご参加くださいます。

研修の特徴としては、ライフプランニングの基本から税制、社会保障、各種資金計画、保障設計、相続対策など幅広い知識をインプットするだけではなく、「使える知識」にするためにロールプレイングや事例研究を多く取り入れているところでしょうか。

この研修で私がお伝えしたいことは、「真にお客様の立場に立った顧客本位の業務推進の重要性」です。



例えば、住宅ローンの説明においては、「貸せる金額」だけではなく「無理なく返せる金額」を伝えていただくよう、頭金や借入額の目安について算出法を紹介します。

「そんな理想論を言っていたら、誰も家なんて買えませんよ」と職員の方に反論されたこともありますが、「お客様自身が理想とのギャップを認識することが大切」ということをご理解いただいています。

「借りられたから大丈夫」ではなく「無理がある資金計画だ」という自覚があれば、資金計画を見直したり、住宅取得後に家計改善の努力をしたり、お客様自身が考え対策をとることができます。

FP資格を取得して間もないころ、公的機関の相談員として無料相談を担当していました。その時、定年前になって「住宅ローンを返せそうにない」と相談される方が少なからずいらっしゃいました。「70代まで返済が続くことは借りた時から分かっているはずなのに、なぜ？」と不思議でならなかったのですが、独立して住宅資金の相談を受けるようになるとその理由がわかりました。

住宅取得を決めて相談にいらっしゃる方の話を伺うと、多くの場合こんな「悪魔のアドバイス」を受けておられます。

住宅ローンの悪魔のアドバイス

1. 返済負担率25%以内なら大丈夫!
2. 家賃並みの返済額だから大丈夫!
3. ローン控除があるからフルローンに!
4. 余裕がある時繰上返済すれば良い!

このようなアドバイスを真に受けて購入を決定した相談者に返済計画を示すと、あぜんとしながらも「今知ることができて良かった」とおっしゃいます。そして、「頭金を増やす方法はないか」「繰上返済資金として毎月いくら準備する必要があるか」など具体的な対策を考えることができます。

「売りたい」不動産業者にお客様の立場に立ったアドバイスを期待するのは難しいのかもしれませんが。金融機関の方には身近なお金の相談役として、長い目で見てお客様に喜ばれるアドバイスをお願いしたいものです。

このように、金融機関向けの研修では、ライフプランに即した提案を行うための知識を得るだけでなく、その知識を真にお客様のために使っていただけるよう「顧客利益の追求、顧客の立場に立つことの重要性」をお伝えしています。

先月の同研修で最後に感想を伺ったところ

- ☑ これまで受けた商品説明のための研修と違い、お客様の立場に立った提案をするための研修だった。
- ☑ お客様目線で家族のように寄り添える金融マンでありたい。
- ☑ このテキストを側において、いつでもお客様のために役立てられるようにしたい。
- ☑ お金を貸すだけでなく知恵を貸せる職員になりたい。
- ☑ ライフプランのことで、困ったことがあったら、一番に思い出してもらえる存在になりたい。
- ☑ いつまでもお客さまの記憶に残る金融マンになりたい。

こんな言葉をお聞かせくださり、3日間の疲れも飛びました。

お客様との信頼関係を築くには、提案の「やり方」以上に顧客本位の「あり方」が重要です。また、お客様との信頼関係を築くことで、LTV（顧客生涯価値）を追求することが金融機関にとっても有効な競争戦略になると考えます。

そして何より、身近な金融機関の方が信頼できる相談役となることで、生活者の安心安全な暮らしに寄与していただけると信じて、今後もより良い研修を届けたいと思います。

このページを印刷する

カテゴリー

FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ

【Vol.239】2022年11月15日発行



📅 2022年11月11日

FIWA認定会員 投稿コーナー

【Vol.239】FIWA認定会員 投稿コーナー

内田英子（CFP,FIWA*）さんのブログより「適切なつみたて投資の家計への組み入れ」

* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

今号よりFIWA認定会員の方の投稿をご紹介しますコーナーを掲載します。

全五回のうち今回は三回目の内田英子さん、松山で活躍しているホンモノのアドバイザーです。

寄稿：FIWA®協認定正会員 内田 英子氏
CFP、FP1級、消費生活アドバイザー

FPオフィス幸せ家族ラボ代表。

証券会社、保険ショップ勤務を経て、独立。

かつての専業主婦経験も活かしながら、子育て世帯を中心に家計の総合医として暮らしの健康を維持するあらゆる選択のアドバイスを金融機関から完全に独立した立場で行っている。

HP：<https://fplabo-happyfamily.com/>

Instagram：https://www.instagram.com/eiko_fp/



②iDeCoを優先するケース

こんにちは。FIWA®正会員の内田英子です。

前回に引き続き、テーマはつみたて投資です。前回のコラムでは私がお引き受けした家計相談の現場において、つみたて投資を使った資産形成でつみたてNISAを優先するケースについてご紹介しました。今回のコラムでは、iDeCoを優先したケースについてご紹介します。皆様の資産形成やそのアドバイスにお役立ていただけましたら幸いです。

ご相談者データ

Bさん（38歳・会社員）、妻（39歳・会社員）、長女（小5）、長男（小1）

愛媛県在住

◆ご相談内容

中古住宅を購入後、9年が経過。今後リフォームも必要になると思われるため、家計のことが気になってきた。今後の生活設計についてアドバイスが欲しい。つみたて投資は一切やっていないが、よく聞くためやった方がいいのかも気になっている。

◆ご相談時のBさん夫婦の希望と将来の見解

- 教育：こどもは2人。2人とも高校まで公立で、大学は2人とも県外の私立文系を想定している。仕送り額は平均額を見込む。
- 住宅：一戸建てを保有。住宅ローンは夫のみ契約。11年目以降金利が変わる段階金利を利用している。翌々年以降、返済額が上昇する見込み。返済期間は35年で世帯主63歳まで。
- 働き方：夫婦とも今後の職に不安はないが、昇給は見込めないと思っている。
- 生活：家計管理は妻が担っており、貯蓄を確保している。教育費に不安がある。保険も複数加入しており、加入内容についても見直したい。
- つみたて投資は行っておらず、できれば怖さもあり進んでやりたくはない。でも関心はある。
- 老後：できる限り働き続けたい。介護や療養が必要な場合は自宅での介護療養を希望する。

◆Bさんの家計データ

- 年間収支 約198万円
年間世帯収入計 970万円
夫 年収（給与収入・額面）520万円
妻 年収（給与収入・額面）450万円
いずれも65歳退職。退職金は見込まない。
児童手当 年24万円
- 金融資産計 約1,210万円
預貯金 約1,000万円
保険（積立型）約210万円

1. 楽観的にみれば生涯資金が尽きることはない見込みZoomクライアント
2. 厳しい見通しを盛り込めば、老後資金は枯渇する可能性
3. 未来の自分に選択肢を残しつつリスクにより強い家計に
4. まとめ

【1】楽観的にみれば生涯資金が尽きることはない見込み

夫婦共働きで頑張っていらっしゃるBさんご夫婦。

お子様の教育に熱心で教育費は高い水準でしたが、基本的な生活費を低く抑えるめりはりの効いた堅実な家計管理で、しっかりと貯蓄ペースを維持していらっしゃいます。今後のリフォームを検討し始めたのを契機に、ご相談にいらっしゃいました。老後生活を見通して、家計の在り方について見直したいとのことでしたので、ライフプランシミュレーションを実施して現状の家計分析を行いました。

その結果、まとまった資金のリフォームを複数回こなしながらも年1%物価上昇を想定すれば、今後年収が上がらなくとも65歳退職後も生涯資金は尽きることはないことが見込まれました。ただし、万が一の際に必要なと見込まれる保障額は最大で2,000万円程度不足していることがわかりました。

しかし保障を増やすとその分保険料負担は増加します。そこで、まずは現在加入している医療保険の見直しとともに、死亡保障の積み増しにより保険料負担を抑えつつ保険を見直す方法についてご提案しました。

【2】 厳しい見通しを盛り込めば、老後資金は枯渇する可能性

物価上昇年1%を見込めば問題のないBさん世帯でしたが、今後の一層の物価上昇と年金手取りの目減りを見込めば80歳頃に資金が枯渇する可能性が見込まれました。現在の経済情勢を踏まえると物価上昇と年金手取り減少への対策は家計にも盛り込んでいきたいところです。

そこで、以下の2つのご提案を行いました。

- 家計を改めて振り返り、無駄な支出を見直しつつ、やりくりを引き続き意識すること。
- iDeCoに夫婦で加入し、お金の置き場所を変えること。

リスクを取った資産形成には抵抗のあったBさん。つみたてNISAのラインナップでは投資信託のみとなっているため、特に心理的なハードルが高いようでした。

そこで、ラインナップに定期預金などの元本保証の金融商品も含むiDeCoをご提案しました。最近では金融機関によってはiDeCoのラインナップから定期預金を外しているところもありますが、まだ残っている金融機関もあります。今後はなくなる可能性があることやiDeCoでの運用を定期預金とする際の注意点、また金融商品のリスクについての考え方もじっくりと一緒に確認していきました。

その上でiDeCoについての詳しい内容とBさんの世帯に当てはめた掛金拠出による節税メリットが理解できると、資産形成へのハードルは少し下がったようでした。

ちなみに、Bさん世帯はご夫婦共働きであり、ライフプランシミュレーションでは昇給は見込んでいませんでしたが、今後は昇給の可能性がもちろんあります。そこで気掛かりなのは、高等学校等就学支援金制度の足切りにあわないかという点でした。

現状の世帯年収から、おそらく足切りにあう可能性は低いだろうと思われましたが、その点でもiDeCo活用が適切と思われました。iDeCoへの拠出を行うことによって、足切りとなるボーダーラインを遠ざけることができるためです。

【3】 未来の自分に選択肢を残しつつリスクにより強い家計に

iDeCoや金融商品のリスクへの理解の深まりとともに、リスクを取った運用へのハードルが下がったBさん。定期預金を含んだポートフォリオをご自身で作り、ご夫婦合わせて年間48万円、iDeCoでの運用を始めることとなりました。

幸いBさんはご夫婦共働きでそれぞれの年金がしっかりあり、家計管理の意識も強くできるかぎり長く働きたいというお考えもお持ちでした。これらの強みを生かせば年金の繰り下げや世帯収入をできる限り維持するための選択肢も残されています。

こういった様々な状況から、これからの物価上昇や年金手取り減少のリスクを見込んで年2%程度の利回りを想定したリスクを抑えたポートフォリオで対応していけるのではないかとの見込みが立てられました。

また、夫のみで住宅ローンを契約していましたが、妻万が一の保障は一馬力になるにも関わらず住宅ローン返済負担を加味しないままでした。今回の保険の見直しによる無理のない保障の積み増しで万が一にも強い家計となりました。

【4】まとめ

つみたて投資においてiDeCoを優先した事例をご紹介しました。

今後の社会状況を見込めばまだまだ不確定要素はありますが、まずはご自身の望む一生涯の暮らしのために今からできることを一つでも多く見つけることが大切です。そしてその選択肢は意外と多くあります。

そのためには長期的、そして総合的に生涯の家計を見て合理的な判断を行うことが欠かせません。

一方で合理的な判断をお一人で行うことは必ずしも容易ではありません。

利益相反のないアドバイスの役割について実感し、改めて気持ちが引き締まる想いです。

[このページを印刷する](#)

カテゴリ FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ 【Vol.239】 2022年11月15日発行



📅 2022年11月11日

📺 動画紹介

【Vol.239】FIWA動画紹介

新 将命氏追悼動画 いま、なぜ「理念」なのか (FIWAみんなのお金チャンネル)

私(岡本 和久) が尊敬して止まない10歳年上の先輩、新将命さんが逝去されたと奥様から連絡をいただきました。亡くなる少し前に「すべてやり尽くし、食べ尽くし、行きたいところへは行き、年にも不足はない」とおっしゃっていたそうです。私は亡くなる三月前にランチをご一緒しました。突然のことで愕いていると同時にさびしい想いでいっぱいです。たくさんのことを教えていただいた私のメンターでした。

新さんには2021年2月27日にFIWA特別セミナーでご講演をいただいたのでご記憶の方も多いかと思います。この動画はその時のものですが新さんの教えのエッセンスが詰まっています。少し長いですが是非、ゆっくりとご覧ください。

岡本 和久 CFA, FIWA

INDEX

- 00:00 岡本和久ご挨拶
- 03:28 勝ち残る企業の特徴
- 11:06 社員品質
- 27:46 経営者品質
- 29:31 理念の三要素
- 34.53 企業経営と人生経営の原点
- 39.25 理念がもたらすメリット
- 44:35 ジョンソン・エンド・ジョンソンの「我が信条」
- 51:14 企業と個人の理念に魂を通わせる

(55:16)

新 将命氏追悼動画 いま、なぜ「理念」なのか



老荘に学ぶリラックス投資とリラックス・ライフ (FIWAみんなのお金チャンネル)

紀元前500年頃の思想家、老子と荘子は「リラックスして生きること」を突き詰めて考えた人です。投資も人生の一部ですから老荘思想はリラックス投資にも効果があるのです。老子、荘子が勧める四つの生き方と投資法を紹介します。資産運用に対する考え方が変わります。

岡本和久 CFA, FIWA

INDEX

- 00:00 老子、荘子ってどんな人？
- 03:48 意識の知識を広げる
- 05:52 四つの智慧 その一 考えすぎない
- 07:47 その二 急がない
- 08:55 その三 争わない
- 10:40 その四 欲張らない
- 12:20 シンプル・イズ・ベスト
- 13:00 タオのプーさんの教え

(15:40)

老荘に学ぶリラックス投資とリラックス・ライフ...



このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.239】 2022年11月15日発行



2022年11月11日

FIWA理事リレー投稿

【Vol.239】FIWA®理事リレー投稿

アドバイザーの提供できる価値とは

寄稿：FIWA®協会理事 高橋 忠寛

上智大学経済学部経済学科卒業後、東京三菱銀行（現在の三菱UFJ銀行）に入社。法人営業、個人富裕層を対象とする不動産関連融資や相続ビジネスを経験し、シティバンク銀行に転職。個人に対するコンサルティング業務に従事し、証券仲介や保険商品、住宅ローン・不動産投資ローンなど、幅広い個人向け金融商品を販売。高い営業実績を残し、社内全営業スタッフの上位約20名が任命されるリレーションシップマネージャーとして活動。2014年9月、株式会社リンクマネーコンサルティングを設立し独立。個人資産コンサルティングや金融教育ビジネスに取り組む。（投資助言代理業 関東財務局（金商）第2855号）



2022年6月にFIWA®理事に就任いたしました株式会社リンクマネーコンサルティングの高橋忠寛と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

最近、アドバイスビジネスに関心を持つ金融機関や金融商品仲介業者が増えています。営業活動で金融商品を売り込むビジネスからようやくアドバイスで付加価値を提供しようという意識が変化してきました。そこで、今回は私が2014年の独立開業以来、金融商品の販売に関わることなくアドバイスのみで事業を展開してきて実感している「アドバイザーが提供できる価値」についてお伝えします。

アドバイザーの提供できる価値には、すぐに実感してもらえる価値と時間がかかるものがあります。多くの方が期待するのはアドバイスに従って投資することによって、お金が増えることだと思いますが、運用成果という価値提供には時間がかかります。運用成果は短期的には運によるところも大きいからです。ギャンブルのような投資ではなく、合理的にリスクをコントロールすればするほど短期的に増やすことは難しくなります。従って、運用成果による価値を感じてもらうためには超長期の時間が必要です。

そして、継続的にサポートをするからこそ提供できる価値もあります。

必要な時期に必要な金額が確保できるように資金管理のサポートを行い、運用資産額をコントロールしたり、資産配分を調整していくことは、効率的に資産を活用し収益を確保することに繋がります。また、市場環境が大きく変化した際にも、お客様の資産状況や投資に対する考え方を把握しているからこそ迅速な提案が可能になり、アドバイザーとして大きな価値を提供できます。

一方で、すぐに実感してもらえる付加価値もあります。

分かりやすいのはコスト削減や節税効果です。同じような金融商品でもコストが10倍近く異なることはよくあります。大手金融機関が提案している金融商品や金融サービスと同じような機能を10分の1のコストで実現できることもあります。

また、税優遇制度を効率的に活用することで得られる節税メリットもすぐに違いを実感してもらうことが可能です。公的制度をしっかりと理解し使いこなし、最適なアセットロケーション（資産配置）を実現できると節税によって多くの資金を手元に残すことができます。

資産運用によって期待できるリターンは不確実ですが、コスト削減と税負担の軽減は確実にリターンを改善します。

他にも、保険の適正化によって、過剰に加入されている保険料を削減できることも多くあります。将来家計のキャッシュフローを見える化することで不安解消や安心感という価値を実感していただけることもあります。

公的年金制度に不安を感じている方には具体的な年金シミュレーションを行い、「いつから」「いくら」年金がもらえるのかお伝えし、年金額を少しでも増やすための対策をお伝えします。また、保有している金融資産の中でどこまで投資していいのかご自身では判断できないお客様に対しては、リスク許容度を確認しながら個人に最適な資産運用プランを提案することで、個人資産全体を最適化する投資金額が決まることもあります。不動産投資と金融資産運用のバランスについての助言に価値を感じていただくこともあります。

以上のように短期間でも提供できる付加価値は数多くあります。

そして、このようなアドバイスの価値をしっかりと理解してもらえれば、多くのお客様は喜んで相応の対価を払ってくれます。

日本では有料でアドバイスを受ける価値が広く認識されているとは言えない状況ですが、アドバイスの価値をしっかりと伝える努力を続けていくことでアドバイザーが活躍できる社会が広がっていくと考えています。

このページを印刷する

カテゴリー

FIWA理事リレー投稿

タグ

【Vol.239】2022年11月15日発行

<モデルポートフォリオ:2022年10月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	6.43	2.58	7.53	12.58	14.54	3.98	29.36	62.06	149.80
	成長型	4.48	1.57	5.32	9.18	9.82	2.71	19.35	40.20	102.82
	安定型	2.53	0.41	2.95	5.69	5.70	1.36	9.73	20.66	61.50
2資産型	積極型	7.56	4.29	9.89	13.38	15.69	4.93	38.41	76.51	193.47
	成長型	5.53	3.34	7.18	10.13	11.22	3.90	26.49	50.89	132.68
	安定型	3.50	2.22	4.29	6.80	7.48	2.78	15.13	28.25	80.55

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2021年10月末に1万円投資資金を積み立て始め、2022年9月末の投資資金までとする(2022年10月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。
出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール (<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>) まで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

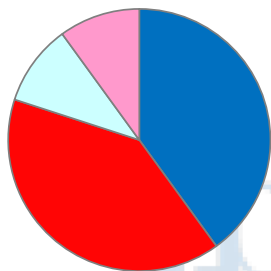
ポートフォリオは「インベストライフ」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストライフ』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

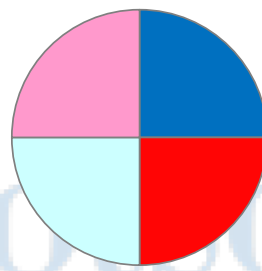
4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

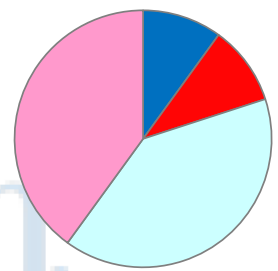
積極型



成長型



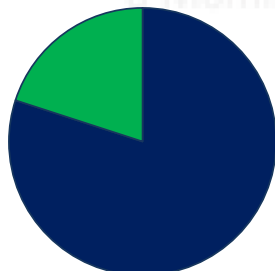
安定型



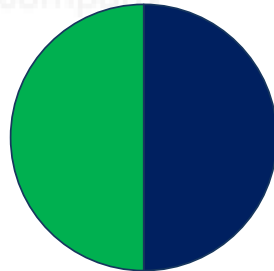
2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

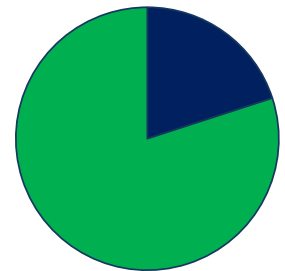
積極型



成長型



安定型



<国内で購入可能な代表的ETF:2022年10月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。※ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」通信「インベストライフ」のその他の記事はこちらをご覧ください。http://www.investlife.jp/

* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。
 なお、国内株式、債券、コモディティについては「インベストライフ」が選定しました。

Ticker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)		1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2022年10月末		総経費率 または 信託報酬 (%)	イボットソン 分類	連動を目指す 投資対象指数
		1か月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1か月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	百万ドル	億円			
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	2.34	-24.13	-1.34	2.29	5.57	5.09	-1.09	4.11	5.38	12.33	17.82	14.45	2.02	18.70	28.03	47.18	12.24	71.22	107.54	176.62	50,986	75,783	0.0968	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ国際)	2.34	-24.12	-1.34	2.29	5.57	5.09	-1.08	4.11	5.38	12.32	17.82	14.45	2.02	18.72	28.04	47.17	12.24	71.23	107.55	176.61	16,396	24,371	0.0858	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI)除く日本(日興AM)	5.49	-19.38	5.57	7.12	7.73	8.33	5.10	11.39	10.35	14.62	19.22	15.96	5.31	46.15	63.34	89.43	12.64	87.69	137.21	227.32	52	77	0.264	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	6.26	-19.91	5.30	7.41	8.25	9.12	4.40	11.11	10.65	15.17	19.02	15.47	5.51	45.24	63.17	91.42	12.66	87.14	137.07	229.71	22,482	33,416	0.07	外国株式・世界型	FTSE グローバル・ オールキャップ指数
I CO	iShares® グローバル 100 ETF	7.01	-14.11	9.10	10.12	10.02	9.89	11.96	15.12	13.45	17.06	19.72	15.56	7.93	63.18	88.36	123.61	12.95	97.91	158.22	268.34	3,486	5,182	0.4	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数
TOK	iShares® MSCI コクサイ ETF	7.66	-17.86	7.18	8.49	9.45	10.55	7.07	13.09	11.77	16.45	19.93	16.11	7.34	53.57	73.87	106.68	12.88	92.14	146.05	248.02	156	232	0.25	外国株式・世界型	MSCI KOKUSAI(コクサイ)指数
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	5.88	-23.11	-0.11	2.47	4.07	8.73	0.23	5.40	5.57	10.73	18.67	15.31	2.66	26.05	35.15	47.31	12.32	75.63	113.53	176.77	41,554	61,764	0.32	外国株式・ 大型ブレンド型	MSCI EAFE 指数
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国)スモールキャップETF	3.52	-28.52	-1.23	2.82	3.78	6.30	-6.83	4.21	5.93	10.42	19.07	16.77	-1.98	21.89	30.62	44.16	11.76	73.13	109.72	172.99	6,882	10,229	0.07	外国株式・ 中・小型ブレンド型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国)指数
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	8.17	-16.89	9.80	10.89	12.41	11.07	8.34	15.86	14.24	19.60	21.08	16.92	8.94	62.95	89.24	138.50	13.07	97.77	158.96	286.20	261,202	388,237	0.03	米国株式・ 大型ブレンド型	CRSP USトータル・マーケット指数
VB	Vanguard・スモールキャップETF	9.91	-16.96	7.05	8.95	10.77	12.87	8.24	12.95	12.24	17.86	24.31	20.17	11.73	55.33	74.88	111.26	13.41	93.20	146.90	253.52	41,479	61,653	0.05	米国株式・ 小型ブレンド型	CRSP USスモールキャップ指数
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	-2.65	-31.34	-3.74	1.74	0.16	-0.04	-10.49	1.58	4.81	6.57	17.91	16.38	-6.59	7.45	17.14	24.77	11.21	64.47	98.40	149.72	19,743	29,345	0.68	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数
WVO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	-3.42	-27.68	-1.83	2.86	1.14	-0.82	-5.73	3.58	5.97	7.62	17.98	16.28	-4.24	15.37	25.73	34.77	11.49	69.22	105.61	161.72	60,840	90,429	0.08	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数
FM	iShares® MSCI フロンティア 100 ETF	-3.46	-32.01	-2.50	1.11	2.69	-0.87	-11.38	2.88	4.17	9.26	18.21	15.23	-7.43	15.99	23.78	31.07	11.11	69.59	103.98	157.29	304	453	0.79	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI フロンティア・マーケット 100 指数
I GOV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	0.60	-27.42	-5.23	-2.70	-2.75	3.31	-5.39	-0.00	0.24	3.47	6.90	7.42	-1.93	-0.53	1.18	3.85	11.77	59.68	84.99	124.61	909	1,351	0.35	外国債券・世界型	S&Pシテグループ・ インテリジェント・リアル・ ドレジャーリー・ボンド指数(除く米国)
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	-1.30	-15.64	-0.58	0.31	0.70	1.36	9.96	4.91	3.34	7.14	7.75	3.98	6.99	20.19	23.69	32.10	12.84	72.11	103.90	158.52	76,381	113,529	0.03	米国債券・中長期型	バークレイズ米国総合指数
TI P	iShares®・米国物価連動国債 ETF	1.26	-11.62	1.98	2.19	0.87	3.98	15.20	7.61	5.28	7.33	8.08	5.16	9.00	32.87	37.65	45.32	13.08	79.72	115.63	174.39	25,045	37,226	0.19	米国債券・ インフレヘッジ型	バークレイズ 米国TIPS指数(シリーズL)
RWK	SPDR ダウ ジョーンズ 国際・リアル・エスレート ETF	1.69	-29.04	-3.77	-2.32	0.06	4.42	-7.50	1.54	0.63	6.47	17.82	16.21	-5.43	5.54	8.01	14.05	11.35	63.32	90.73	136.86	456	678	0.59	海外不動産(除く米 国) セクター型	ダウ・ジョーンズ・グローバル (除く米国) セレクト・リアル・ エスレート・セキュリティーズ指数
I YR	iShares®・米国不動産 ETF	3.12	-21.21	3.99	4.94	6.35	5.89	2.70	9.73	8.11	13.16	20.30	17.51	0.25	37.56	47.74	72.96	12.03	82.53	124.11	207.55	3,363	4,998	0.39	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	6.52	22.88	7.23	3.65	-3.89	9.38	60.17	13.15	6.79	2.26	25.50	22.14	28.43	95.05	96.33	71.29	15.41	117.03	164.92	205.55	1,525	2,267	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	-1.99	-7.73	4.81	4.87	-0.87	0.64	20.28	10.60	8.04	5.47	13.31	14.80	7.66	39.96	49.53	56.39	12.92	83.97	125.61	187.67	48,493	72,077	0.4	コモディティ・貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決め値)

*積み立ては税引き前分金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2021年10月末に1万円で積み立てを開始し、2022年9月末投資分までの2022年10月末における運用成果とする(2022年10月の積み立て額はいれず)。

出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.com.jp/contact-us/>)にてお気軽にご返信ください。